

刊夕e一廿月四



定価 一部全紙一ヶ月五拾五圓 郵費五圓  
 廣告料五圓 十二字一圓 一行五拾圓  
 日曜祭日の翌日休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

平町を觀る (4)

山口彌一郎

四、川中子の野菜畑  
 平町に供給する蔬菜類は近郊農村の夏井川、好間川に沿ふ川中子、下平窪、北白土及び山麓の下好間、小島谷川瀬等で栽培される。夏井川の兩岸には昔の河底で今も時折洪水に見舞はれる砂質壤土の畑が多い。平町の消費地を叩いて經營が著しく收納化され、畑地を高度に利用してリヤーカーや背に負うて野菜賣りをやる。主に徒歩で賣り歩いたため距離は三軒を出ることは稀である。濕潤な深土に適する葱の様なものは城山の北麓に近く、大根、牛蒡、人參の長い根莖のものは北白土や川中子の河岸に近い壤土がよく、茄子や藩茄、胡瓜、越瓜等は病虫の害を受け易いから濕潤な土地を避けて平窪や川中子附近でも洪水を受けない様な川岸を離れた稍々高所を利用してゐる。

布と關係させ育苗期間、生長期間、收穫期間、貯藏期間を適當に組み合はせて市場に絶えず供給すると共に畑を空けぬ様にしてゐる。種類に依つて茄子、藩茄、里芋は三年から五年、豌豆牛蒡は五年から八年、胡瓜馬鈴薯、葱、ほうれん草も一年から三年位連作をやらない方がいゝし、大根や人參等は毎年同じ畑でいゝから冬季に麥を播いて他の野菜と組合はせてゐるものもある。そして少しでも早く市場に出す事に心掛けて育苗を温床でやる等、東京近郊の様な大規模なものではないが、川中子附近には夏井川の畑地と平町に距離が近いと言ふ關係で收約化された農村經營の一面が見られる。

ノート

北極地方は不毛の地だとはかり考へられて居たが最近に至り各種の植物が繁殖して居る事が發表された

五、山麓臺地の梨畑  
 櫻桃は福島や會津地方から北の裏日本に産するが石城地方では餘り良い結果が見られない。柿は相當多くでるが品質の點で優秀とまでは至らない梨は産地は非

常に廣いが當地のものも産額も可成多く味も棄て難く最近販路を東京附近まで進出させてゐる。梨畑は平町の南部には殆んど見當らず殆んど北部の

二明日の献立二

【朝】なまもの：金山寺みそ 福神漬

【晝】酢のもの：ほつきあんこう

【晚】旨煮：牛肉 たけのこ 木の芽

平窪や赤井、小川の山麓の斜面が臺地にある。殊に古い夏井川の運んできた土砂の堆積した五反田や赤井の臺地は土質が適してゐるらしく、御臺境附近の梨畑も多くは同じ様な土質の所である。城山の臺地も適すると思ふが急激に發達した住宅のため一部が桃畑に残つてゐるのみである。

看護婦急派の求めに應じます

平町南町 看護婦會 電話三〇七番

旭硝子株式會社製品  
 赤菱印 板ガラス  
 菓子 壺  
 硝子 食器  
 其他 各種

製造 賣販  
 松崎硝子製作所  
 平町新川町(電話一四二番)  
 仙臺市榮町(電話五九七番)

御見の折詰  
 特賣品を(一名)折詰で  
 御一人前 五十五錢

- 立献詰折朝
- 魚 すし 七品
  - 銘 酒 二合ビン 五品
  - サカツキ 一個
  - 花カンザシ お土産品 一本
- 外に 魚 折詰 二十錢ヨリ  
 すし 折詰 二十錢ヨリ

せ印  
 せ魚店食堂  
 例年の通り魚清自慢の  
 特製 みつ豆 八錢  
 始めました  
 \*お花見のお歸りには是非お立寄を\*

吉田眼科病院  
 平町南町、電話六八番

MSカメラ景品附大特賣  
 花の春!!!  
 カメラのシーズン!!!  
 散歩に御旅行に  
 春の行樂にはぜひMSカメラを  
 MSカメラ第一回懸賞寫真募集  
 一、資格弊店より御買上のカメラで撮つた寫真に限る事  
 二、寫真：櫻を背景とした人物及風景に限る  
 三、大きさ：小型ベスト名刺版にて何枚出すも可 但し一人一賞の事  
 賞品 一等銀カップ以下十等迄  
 〆切 四月三十日 發表 五月五日  
 其他詳細は當店へ御問合せ願います  
 カメラ特約店  
 主催 平驛前いづみやカメラ部

平館 入場券  
 一名二付 五錢安  
 平町 土橋 マルマン商店  
 電話四八九番

鹽豚 肉蒲鉾  
 田町 三三三屋

専門 内科一般  
 住宅診 内科は何でも診療致します  
 往診 呼吸器病ばかりではありません  
 平町南町六五  
 川井内科診療所  
 醫學士 川井重子  
 女醫 川井安子  
 電話一八一番

# 明日大會に

## 本郡の提案

### 聯合青年總會で

既報縣下聯合青年團總集會は明日午前九時より警中講堂に於て開かれるが本郡より提出したる協議題は左の如く内郷村青年團員萩重夫君が本郡を代表し意見の發表をなすと

一、本郡より縣聯合青年

團に對する補助金増額の件

一、本縣男女青年團獎勵資金の利子を男女青年團の事業費に交付されん事を其筋に建議するの件

# 縣下青年の

## 純眞な叫び

### 今晚平署會議室に

#### 縣下青年雄辯大會開かる

既報縣下聯合青年團第四回雄辯大會は本日午後六時より平署會議室に於て開かれるが各郡よりの代表選士は左の如くである

(青年、思想、祖國)岩瀬郡 渡邊信太郎(明い日本は先づ禁酒より) 信夫郡 鈴木三郎(所感)郡山國井七郎(非常時に於ける吾等の覺悟) 大沼郡 小林藏田(未定) 河沼郡 新井田廣(非常時克服と青年の使命) 耶麻郡 川口新一(農家自給經濟に就いて) 東白川郡 青砥惣一郎(國體の本義と非常時に直面せる吾等の覺悟) 伊達郡 飯沼傳(愛郷の叫び) 安達郡 鳴

郡渡邊重美(岐路に立てる農村を想ひて) 石城郡 片寄一

果樹未納整理 石城郡飯野村果樹組合では廿五日午後一時より村役場に於いて七年度組合費未納金の整理に就いて役員會を開く

郡内最初の 果樹共同出荷場 工費千餘圓で平窪に建設 石城郡平窪村は郡下有数の果樹出荷村として知られて居る爲め今回縣の補助を受けて上平窪地内に工費千餘圓の果樹共同出荷場を建設

# 郡内最初の

## 果樹共同出荷場

### 工費千餘圓で平窪に建設

石城郡平窪村は郡下有数の果樹出荷村として知られて居る爲め今回縣の補助を受けて上平窪地内に工費千餘圓の果樹共同出荷場を建設

# 緬羊飼育

## 郡内の講習

石城郡農會では縣と聯合して昨年より緬羊飼育講習會を左記日割に依つて催す事となつた  
廿四日 江名 廿五日 泉  
廿六日 植田

# 本年度教育行事

## 部會の役員會で決定

石城教育部會にては昨日午前十時より第一小學校に於て役員會を開き本年度左記行事を決定したと  
五月二十九日 校長會、六月二十五日 教員會、五月二十八日 教育部會、總集

# 小川江工事費の

## 寄附負擔を附議

既報小川江筋組合の改修工事は總工費十萬三千三百圓の二ヶ年繼續事業として八年度より起工する事となつたので組合では八年度工費充當の爲め一萬七千七百圓を

で兩者譲らずの猛練習を勵む筈

# 屠殺處分

## 手当

### 養豚家が

#### 愁眉を開く

既報昨年中郡下各町村の養豚家に甚大な被害を負せた豚コレラ蔓延に際し罹病豚の屠殺處分を受けた養豚家に對し今回農林省より一頭五圓六十錢の割で手当金を交付される事になつた

# 課外教授

## 平商で實施

平商業學校にては職員會を開いた結果來る二十三日より各學年に對し左の如く課外教授を實施する事に決定したと  
(一年)圖書運動(二年)運動(三年)運動(四年)經濟及西洋史の選擧運動(五年)簿記運動

# 磐中對古河

## 競技のメソバ

磐城中學校競技部にては來る二十九日午後一時より古河グラウンドに遠征し古河炭礦競技部と試合を行ふ事になつたがメンバーは左の如くである  
(百米)金成 石橋(二百米)金成 藁谷(四百米)杉山 秋本(五千米)鈴木 草野(一市)吉田 小野

(走高)花澤(棒高)松下 (三段)吉田(八百米)猪狩

平町人事 回出生

△彌宜町三 西郡國太氏三 男州三人  
△播磨小路六 當時東京市 目黒區下目黒二丁目錦織 清一郎氏四男政男

# 院醫坂井

科人婦・科外 町田町平 番九五五話電

# 合服とレインコート

御召替の節です……… キット皆様の御氣に召す 1933の春の新製品を豊富に 取揃へ陳列して御座います。

|         |       |    |
|---------|-------|----|
| 新柄背廣    | 12.00 | ヨリ |
| 黒セル背廣   | 9.00  | ヨリ |
| レインコート  | 9.00  | ヨリ |
| パーバリ    | 3.20  | ヨリ |
| トレンチコート | 5.00  | ヨリ |

ふかや洋服店 平電 三 203

# 謹告!

御眞實皆々様の御勧めに依りまして、今度花の松ヶ岡公園記念碑前に賣店を出させていたゞきました。是非御立寄り下さいませ御待ち申上ります。

平町田町

# うなぎ 奴

電話二二番

# 中村齒科醫院

平町鍛町七

# 廿年間勤績

## 大塚教諭に記念品

### 磐城訓盲院の同窓會

磐城訓盲院では昨廿日午前十時より同校講堂に於いて同窓會を催し大正二年二月同校に奉職以來二十年間教諭の職に在る大塚喜一郎氏に對し記念品として用單筒一組を寄贈し餘興等もあつて四時散會した

# 産業組合擴充

## 五ヶ年計劃

### 愈よ實現に着手

石城産業組合部會では明廿二日午前九時より丸友ホール樓上に郡下廿六組合長會議を開き産業組合擴充五ヶ年計劃の具体案に關し協議するが是れが爲め各地に産業青年會を設立する事になると

### 商友會の協議

友會にては母校二十週年記念祝賀を前にして明日午後六時より母校に於て幹事商議員會を開き種々協議する

# 右腕が利かないと

## 會社に食つて懸る

### けふ第一回の口頭辯論

石城郡内郷村大字綴半澤利三郎(三)が東京三輪辯護士を代理とし平支部に入山探炭株式會社を相手取負傷して不具となつた賠償金二千五百圓の請求訴訟を提起した事件の口頭辯論は本日午前九時より中島判事係り、關口、竹内兩判事陪席、原告代理人三輪、被告代理人千葉、草刈各辯護士列席の上開廷され證人を訊問する事となつたが事件の内容は原告は會社の經營する湯本町入山第四坑附屬鐵工場に實習生として見習に從事しマキドラ作業中昨年三月頃機械の故障に依り正面盤の下敷となり右腕及び左手に負傷し直ちに治療したが全治せず右腕は終ひに役に立たぬ様になつたものである

# 銅線を盗取した男

### 窃取した男

石城郡磐崎村大字上湯長谷字長倉七日雇業石田保(三)は去る廿日隣家の小田炭礦係員畑吉方よりラデオ用銅線三十尺及び齊藤榮光方より同く二十尺の銅線を窃取し字梅平古物商渡邊鐵二に賣却せる事發覺昨日平署員に檢舉されたが自宅には尙十四ポンドレールを多數隠匿して居たと

# 酔ひどれ村議に

## 批難の聲が昂る

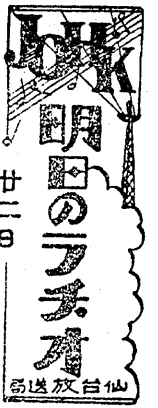
### 校長を歐打負傷せしめて 少しも反省しない

石城郡上小川小學校で訓導の送別會席上學務委員箱崎喜四郎が校長久徳次郎氏を歐打し眉間に傷を負はせた事は既記の如くであるが原因は箱崎委員が散々に泥酔し居合した人々に喧嘩を吹き掛ける爲め久校長が見かねて自宅に連れ來り種々なだめて居た處突然同校長を歐つたものにて校長は職務柄泣き寝入りの姿で謹慎して居るに拘らず箱崎委員は少しも反省した様子が出ないので村内の有志が憤慨し箱崎委員に批難の聲を放つて居ると

# 汽車通學が約半數

### 磐城高等女學校の生徒達

磐城高等女學校の汽車通學生は全校生七百八十一名の内三百五十八名を占めて居り各驛別は左の如くである  
(上)磯原一五 關本一九 勿來一一 植田二二 泉一八 湯本六九 綴七二  
(下)草野三一 四倉四九 久之濱一三 廣野六木戸八 龍田一 富岡八(磐越線)赤井一 小川一五  
磐中校長出席 磐城中學校長小椋山久作氏は來



### 明日のラジオ

今夜は北東の風雨 明日は北東の風曇り次第に快復いたします

### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 管絃樂 二高スモールオケストラ  
後六、二五 趣味講座「櫻に就て」阿部忠一  
後七、〇〇 講演「演藝の今昔」大谷竹次郎  
後八、〇〇 清元  
後八、五〇 連續講談「後

### 明日の部

日の宮本終席「大島伯鶴 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告 後九、五〇 日本棋院春季大手合戦ニユース  
前六、〇〇 小鳥の春 淺草公園寺庭園より中繼  
前六、三〇 基礎ドイツ語

# 米多收講習

### 田人村に開く

石城郡田人村農會では來る廿五日午前十時より同村小學校に於いて苗代米多收講習會を催すが講師は米山駐在技術員である

# 兵營に起臥して

### 實彈の射撃を練習

### 平商の五年生三十八名

平商業學校五年生三十八名は來る五月三日駒場配屬將校及び大澤教諭に引卒され平發五時四十分にて三泊四日間の豫定にて兵營見學並に實彈射撃の爲め仙臺に向つて出發すると

# 梨栽培の講習會開催

### 果樹組合主催

既報石城郡果樹組合總會は昨廿日午前十時より團體事

講座(五)橋本忠夫 前九、一〇 料理献立一冊の生美焼き「朝倉長吉發表  
前二、三〇 家庭講座「毛織物の仕舞方」陸軍技師深水實義  
後六、〇〇 五尺八二古傳三曲之内本曲眞虛靈「大數秀嶺 内田秀童  
後二、〇〇 家庭大學講座「維新の大業と婦人の力」(六)維新史料編纂官藤井基太郎  
後二、二〇 運動競技 東京大學野球聯盟リーグ戦 試合状況 慶應對帝大(明治神宮外苑野球場より中繼)  
後八、三〇 浪花節 吉田奈良

### 平職業紹介報告所

### 回人を求める方

△農夫 四十迄 月四圓外 面談(夏井村某)  
△給仕 十六才 高卒 給料面談(平町某公所)  
△炊事婦 三十八才 委細 面談(平町某旅館)  
△雜夫 三十才 尋卒 月五六圓(四倉町某)  
回職を求めの方  
△給仕 十七才 高卒 給料面談(平町某)  
△事務員 二十五才 中卒 給料面談(平町某)  
△自動車修繕工 四十六才 尋三修 給料面談(内郷村某)  
△小使 四十四才 高卒 給料面談(平町某)  
△女中 四十一才 委細面談(平町某)

### 裁判所だより

△平町搔搔小路三十一番地 菊地喜市方吉田淺次郎(三)は無免許にて自動車運轉し罰金二十圓に本日平區裁判所に於て略式命令を以て處分された



# 常磐日新報

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第三百二十號

佐々木見山

見山試合に負く

佐々木見山に菊地大六は肩衣を刎ね袴の股立を取上げ晒布にて鉢巻をいたし門人が持來たりし木劍を取上げた、互に黙禮してテリ、ツと進み寄つたが菊地大六は四天流の術に達し居ることとしてこれは木劍二口、右に持ちし木劍を振り左をピタリと青眼にとつた、佐々木は下段にとつてエツと氣合をかけたが何しろ名人ですから此の氣合のするどい事又木劍から今にも火が出るかと思ふやう、菊地は初めて佐々木の劍法にすぐれ居るを見てびつくりしたそれは自分も出来て居ますから敵のえらいこともわか、我々共は無教育で馬鹿ですからどんな人に出會つても驚きません、驚くほどになれば大したものの盲目は蛇におちすといふ事もあります出来ると人の眞價を知る事も出来るから恐くなる大六はこれは大變佐々木は強敵なりと斯う思ふと氣がなれる思ふ様に技を現すことが出来ない、それゆゑ氣合にまけて附けてゐる木劍がブル／＼とふるへます、佐々木には少しも取亂した

あるぞ、とても菊地はかなはぬぞ、もう得物を投るが良いまだ、伏降いたさぬか、さて、強情な奴だ、ズイと前へ出て竹の欄干へ手をかけてツームとうなつて居たが  
織「オー打合居るぞ、見ろなんとほげしいではないか木劍とは見えぬぞ魂が入つて居るやうだナ」  
ボン／＼と打合つたが變化の早いことするとボンと佐々木は木劍をすて、佐「參つた」  
と云ひながら下つた、菊



さがり居るぞあゝいかに逆も菊地は勝利を得ることはあるまい大六疲勞し居るといふつ／＼と目をつけてゐる、その下棧敷にゐる家老吉田織部は佐々木を信仰してゐる故  
織「どうだ見山の方が上だ

近「御意にございます、佐々木は打負ました事と存じます」  
殿「さうか見山が勝利とのみ思ひ居つたが得物を投げすてたのは菊地が勝利を得たと思ふ、彼等をこれへ呼べ」  
近「畏まりました」  
直にこの事を二人に傳へた、佐々木に菊地は支度を直して打伴れて棧敷に參つた、有馬侯は二人を見て殿「只今の試合は見事であつたナ、木劍勝負とは思へぬ、若侍武藝奨勵としては最上の良薬である、盃を遣はす」  
佐「有難き仕合せ御禮申上げます」  
と答へたが菊地大六は頭を下げて居るのみで禮を云ふことは出来ない、それは疲れてゐるため、やうやく盃を取上げた、有馬侯が目をつけてゐると菊地は唇迄變つてゐる、それに引替佐々木は自若として居りますやがて御前を辭して二人は休息所に引取る、其の内に殿様又家老吉田織部其の他重立ちし者は引取りました佐々木見山は中村と松崎及渡邊等に送られて長家へ引取つた、菊地大六は若黨の田口清助を供につれて是も戻つて來たが  
大「今日試合は精根共に盡き果てた、イヤ佐々木は中々出来る」  
とこんな事を云つて居た此方は佐々木見山  
佐「イヤ渡邊、松崎コレ中村、今日の試合はどう見た

ナ」  
松「恐れ入りました、しかし先生、あなたに對つて勝利を得る様では、きく地先生も大したものでございませう」  
佐「さうか、勝たから名人とは云へない、しかし今日の試合はまず俺が負たと見たであらうとは云へ神様にはどう見たかアハ……」

平町二丁目  
三井タクシ  
電話五六八番

御用命は印刷物の總代理  
常磐日新報印刷株式會社  
電話三六〇番

桜花の季節になりました  
お花見には是非……  
**夜宴の打詰**  
時節柄價格低廉  
奉仕的勉強  
平町一丁目  
**不夜天**  
電話一四一番

**外科**  
専門線光X  
上田外科病院  
平町南町  
電話一二九番

お花見折詰  
御重入辨當

耳鼻咽喉科専門  
入院應需  
平町田町七〇番地  
**山内醫院**  
醫學士 山内亨吉  
電話六九一